

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 79 人

② 数学 79 人

③ 理科 79 人

5 留意事項

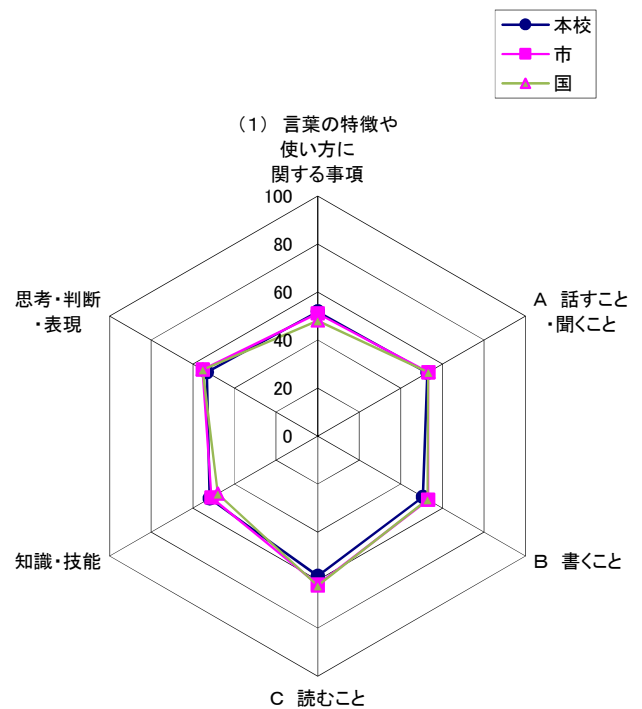
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	51.9	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	52.8	53.2	53.2
	B 書くこと	50.6	53.1	52.8
	C 読むこと	58.2	61.8	62.3
観点	知識・技能	51.9	51.1	48.1
	思考・判断・表現	53.3	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

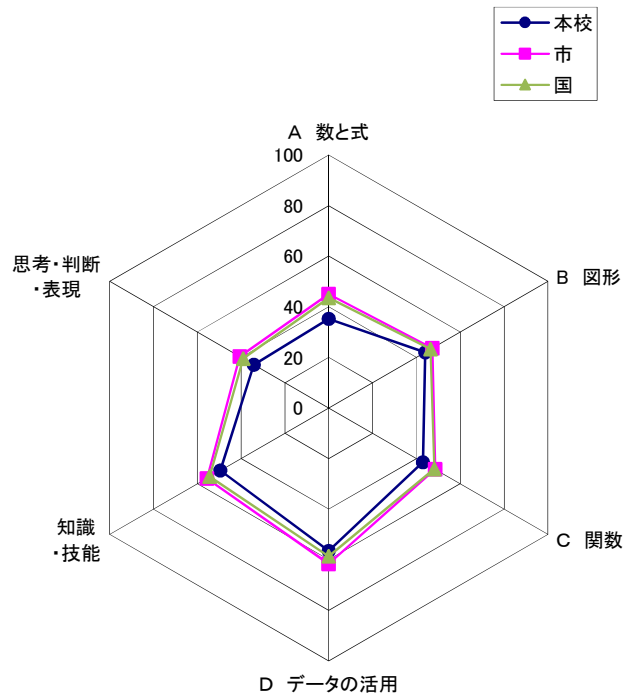
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○市の平均正答率よりも0.8ポイント、全国の平均正答率よりも3.8ポイント上回った。 ○すべての問題で正答率が栃木県、全国よりも上回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日々の学習の成果が表れているため、今後も継続して指導したい。今後は基礎の定着のみならず、言語の使い方の発展的な授業も行っていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	●市と全国の平均正答率よりも0.4ポイント、下回っていた。 ○大問2の問2「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択」では、県の平均正答率よりも3.5ポイント上回っていた。	・話し方の構成を考えたり、よりわかりやすい話し方を工夫したりする問題に課題が見られた。そのため、今後は自分が伝えたい内容を整理し、順序立てて構成を考える学習内容を取り入れる。また、話し方を工夫するために、他者と比較して互いに改善点を伝えあうなど、具体的に改善点を見つけられるような授業を増やしていく。
B 書くこと	●市の平均正答率よりも2.5ポイント、全国の平均正答率よりも2.2ポイント下回った。 ○大問4では、問1. 2ともに手紙の下書きを見直し修正点を正しく見つけられ、その理由に答えられており、どちらも県、全国の平均正答率を上回った。	・書く内容の構成を考えたり、自分の考えが伝わりやすいよう根拠を明確にしたりする問題に課題が見られた。そのため、書き始める前段階として構成を考えさせたり、自分の主張の根拠を考えさせたりする学習内容を取り入れることで、書く力が高まるようにしていく。
C 読むこと	●市の平均正答率よりも3.6ポイント、全国の平均正答率よりも4.1ポイント下回った。 ○大問3問2「登場人物の人物像を捉える」では、県の平均正答率よりも3.5ポイント、全国の平均正答率よりも3.1ポイント上回った。	・表現の効果について、根拠を明確にして考える問題に課題が見られた。そのため、文章中の表現の工夫や効果について考える際に、「なぜそう考えるのか」という根拠まで説明できるよう、丁寧に指導をしていく。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	35.2	45.0	43.5
	B 図形	44.0	47.2	46.5
	C 関数	43.0	48.5	48.2
	D データの活用	56.5	61.6	58.6
観点	知識・技能	49.5	55.6	54.4
	思考・判断・表現	34.2	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	●市の平均正答率よりも9.8ポイント、全国の平均正答率より8.3ポイント下回っている。	・素数や割合といった基礎知識の定着と基礎的な文字式の計算力を高めたい。
B 図形	●市の平均正答率よりも3.2ポイント、全国の平均正答率より2.5ポイント下回っている。 ○証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題では全国の平均正答率を3.5ポイント上回っている。	・結論に行きつくまでのプロセスを大切に、公式や定理の使いどころを見極める指導をする。 ・物事を論理的に順序だてることの重要性を、具体例を通して体験させ、証明することに関心をもたせる。
C 関数	●市の平均正答率より5.5ポイント、全国の平均正答率より5.3ポイント下回っている。 ○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題では正答率が70%を超えている。	・グラフから情報を読み取るため、式・表・グラフは表現方法の違いであり、3つすべてが関連していることを指導する
D データの活用	●市の平均正答率よりも5.1ポイント、全国の平均正答率より2.1ポイント下回っている。	・データ分析の基礎知識を定着させ、多くのデータから必要に応じて適切な情報を選択できる力を身に付けさせる指導をする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的に、ほとんどの項目で肯定的回答が県や全国の平均を上回り、生徒は素直で前向きに生活していると思われる。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対しての肯定的割合が県平均を20ポイント以上上回っており、高い自己肯定感をもつ生徒が多いといえる。その結果、教員とのよい関係を継続し、学校に行くのが楽しいと感じている生徒が多く、人が困っているときに進んで助けることができ、人の役に立つ人間になりたいと思うなど、生徒たちは心のゆとりをもって学校生活を送ることができている。「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに対しての肯定的割合も、県の平均を14ポイント上回っている。

○「学級での話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考えに気が付いたりすることができる」という問いをはじめ、相手の気持ちを意識した話し合い活動に対する肯定的回答が多く、本校の学習課題としても掲げている「対話的で深い学び」の指導の成果が表れていると思われる。

○ICTを使った活動については、「ICT機器で文章を作成することができますか」などの問いに県の平均を17ポイント上回り、その他の「情報を整理することができる」や「プレゼンテーションを作成することができる」などの問いにも同様に10ポイント以上上回る肯定的回答があり、ICT機器の使い方に関心をもって取り組んでいて、総合的な学習の時間や各教科の時間での一人一台端末の使い方の指導が成果をあげていると言える。

●「月曜日から金曜日、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という問いに対して、本校生徒の「勉強をする時間」は県の平均とほぼ同程度であったが、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、どれくらい勉強をしますか」という問いに対しては、県の平均を4.5ポイント下回っている。学級活動などで、学校以外の時間の使い方などを考える授業を行うなど、時間の使い方の見直し、改善ができるよう指導していきたい。

●「授業の内容は分かりますか」という問いに対しての肯定的割合が、国語では県の平均を7ポイント上回っているのに対し、数学では1ポイント上回り、理科では7ポイント下回っている。一人一人の習熟度に合わせた課題を用いたり、必要としている生徒により適切な支援を行うなど、個に応じた学習を心掛けるほか、生徒一人一人の良さを生かしながら対話を通じた協働的な学びも充実させていく必要がある。

宇都宮市立城山中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業の中で自分で考えたり、話し合い活動を取り入れ、言語活動の質的向上をめざす。	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気が付いたりすることができますか」の設問をはじめ、相手の気持ちを意識した話し合い活動に対する肯定的回答が多く、本校の学習課題としても掲げている「対話的で深い学び」の指導の成果が表れていると思われる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の内容は分かりますか」という問いに対しての肯定的割合が、国語以外の教科で県の平均を下回っている。	個に応じた学習を心掛けるほか、生徒一人一人の良さを生かしながら対話を通じた協働的な学びも充実させていく。	一人一人の習熟度に合わせた課題を用いたり、必要としている生徒には個別指導を行うなど、個に応じた適切な支援を行う。